

授 業 科 目 の 概 要					
(空間デザイン学部空間デザイン学科)					
科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	建学の精神を学ぶ科目	建学の精神と仏教	○	本授業では、駒沢女子大学の建学の精神「行学一如」「正念」とその基礎となる仏教の開祖・釈尊の生涯と教え、さまざまな日本の仏教文化について概説する。日本文化の形成に大きな影響を与えた仏教が今を生きる私たちにどのように関わって合ってくるのか、建学の精神と仏教の学びを現代社会に活かす視点をもって授業をすすめる。本授業の学びを通じて、今後の人生の指針となる教養と作法を身につけるとともに、仏教の観点から「人間」をより深く理解する契機とする。授業では課題解決型学習を行う。なお照心館の坐禅堂にて2回程度の坐禅実習を行い、日常の礼儀作法も身につける。	
	情報キャリア育成科目	空間デザイン入門Ⅰ	○	住宅から店舗、公共施設、まちづくり、プロダクトデザイン、グラフィックデザインといった、建物の内部から外部までの空間デザインに関わる基本的な知識を養う。将来の自分が専門性を持って社会とどのように向き合っていくかをイメージしながら、空間を総合的にデザインし提案するための初歩的な技術を学ぶ。また、見学会や共同作業などの実践の場を通してデザインの基礎を学び、自分の考えを表現する力や人に伝達する力、批判する力を身につけ、主体的な学習方法を習得することを目的とする。	共同
		空間デザイン入門Ⅱ	○	住宅から店舗、公共施設、まちづくり、プロダクトデザイン、グラフィックデザインといった、建物の内部から外部までの空間デザインについて、幅広く客観的な視点から学ぶ。また、見学会や共同作業などの実践の場を通してデザインの基礎を学び、自分の考えを表現する力や人に伝達する力、批判する力を身につけ、主体的な学習方法を習得するとともに、将来の自分が専門性を持って社会と向き合っていくために必要な調査力や分析力、表現力も習得することを目的とする。	共同
		キャリアデザイン	○	経済のグローバル化にともない、これまで日本の経済を支えてきた産業構造や人口構成は、大きく変化し、就業形態や人生観も多様化している。本講義では、女性の「生き方」について「就業観」「生きがい」「子育て」などを通して議論を進める。この作業を通して、卒業後の就業に際して「企業が求める人物像」と「個人の抱く社会人観」「家族観」をつなぐ価値観を再編し、具体的に語ることでできる素養を身につけることをめざす。	共同
		ICTリテラシー	○	本授業は、高度情報社会における情報収集やその処理の基礎を学ぶことを目的とする。具体的には、諸々の検定を指標としたレベル設定（ビジネスの現場において基礎的な文書処理ができる程度）を行い、情報通信技術（ICT）を使いこなすための知識と実技演習を中心に授業を進めていく。本授業では、文書作成、レイアウト作成、作表、作図、表計算などの技能を必要とする基本的なビジネス文書作成を繰返して実践的な演習を行う。	
		空間デザインとICT	○	本授業は、大学で授業を受けるために必要なICTリテラシーおよび、CADソフトの基本を身につけることを目的とする。建築設計やインテリアデザイン、プロダクトデザインなどの分野で一般的となっているコンピュータによる作図（CAD：キャド、Computer Aided Design）の基礎課題を通して、ファイル管理や教場機材の使用方法などを身につける。CADソフトは「VectorWorks」（エーアンドエー株式会社）を使用する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	言語力育成科目	言語表現演習Ⅰ	○	大学生として、また社会人として必要な日本語の運用能力を養うことを目標とする。具体的には、日本の社会におけるコミュニケーションに大きな影響を与える「敬語」の体系、および、会話における誤用を防ぐために欠かせない日本語文法についての基礎知識を学ぶ。また、ふだん意識せずに使っている日本語の特徴や、自分の日本語に関する知識を確認しながら、コミュニケーションツールとしての日本語を適切に使いこなすための基礎的な技術を学ぶ。様々な文章表現に親しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、大学生にふさわしい文章を書ける力を養うことを目標とする。	
		言語表現演習Ⅱ	○	言語表現演習Ⅰを受け、日本語の正しい語法に習熟し、日本語の運用能力を高めることを目指す。具体的には、自らの言語生活を振り返りつつ多くの語彙に触れて、さまざまな表現を生み出す力を身につけ、正確な表記で各種の文章を作成できる能力を身につける。また、文体、言葉の意味、表記などの日本語の基礎を身に付け、状況に応じて適切な文章を書けるようになること、日本語についての知識と教養を深め、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を身につけることを目標とする。文章表現に親しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、社会人にふさわしいコミュニケーション力を身につけることを目標とする。	
		英語（会話表現）Ⅰ	○	高校までの英語学習を基に、基礎的な英語力の向上を目指す。基本的な英語表現を用いて、質問したり、答えたりできるようにする。日常生活において、数字や品物の値段の確認、日付、曜日等の、必要であると同時に重要な情報を正確に聞き取ったり、伝えたりできるようにする。簡単な単語やフレーズを使って、自分の気持ちや意見を相手に伝えられるかを意識させながら、会話や英作文での表現の幅を広げる。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	
		英語（会話表現）Ⅱ	○	英語（会話表現）Ⅰを基に、基礎的な英語力の向上を目指す。基本的な英語表現を用いて、質問したり、答えたりできるようにする。自分の身の回りのトピックについて、場所や時間といった具体的な情報を聞き取ったり、自分の趣味や興味のあることなどを伝えたりできるようにする。簡単な単語やフレーズを使って、自分の気持ちや意見を相手に伝えることを意識させ、会話や英作文での表現の幅を広げていく。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	
		英語（読解）Ⅰ	○	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「語彙・語法」について学ぶ。	
		英語（読解）Ⅱ	○	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「文法」について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	言語力育成科目	英会話Ⅰ		(英文) This class focuses primarily on improving students' speaking and listening skills, with some reading and writing. Natural and current forms of conversation will be covered with an emphasis on improving students' pronunciation, intonation and fluency. Real-world topics are provided and students are given language structures that will help them in a variety of real-life situations. Through a combination of pair and group work, students are given a variety of activities to help them become confident in using the target conversational structures. (和訳) この授業では、リーディングとライティング指導も行いつつ、主にスピーキングとリスニングの上達に重点を置く。自然で実際に使われている会話形式を取り上げ、発音・抑揚の改善と流暢さに重点を置いて指導を行う。実際にメディアで取り上げられた英文を材料として使用することで、より現実に近い場面での学習ができるように工夫する。できるだけペアワークやグループワークを取り入れ、学生たちが積極的に学習できるような機会を提供する。	
		英会話Ⅱ		(英文) This class builds on English Conversation I and continues to strengthen students' communication skills in English. Special attention will be given to developing active knowledge of colloquial English and the ability to interact on a variety of popular and current conversation topics. Real-world media will be used as a springboard for meaningful interaction. Interactive structures related to communication in modern English will be provided and students will be given the opportunity to practice their learning with each other through a variety of communicative tasks. (和訳) 「英会話Ⅰ」の学習を踏まえ、英語でのコミュニケーション能力を強化することを目指す。特に、口語英語について積極的に知識を身につけ、一般的で最新の様々な会話トピックについて対話する能力を養う。実際にメディアで取り上げられた英文を材料として使用することで、より現実に近い場面での学習ができるように工夫する。学生たちが相互に関わり合いながら積極的に学習できるような機会を提供する。	
		フランス語Ⅰ		本授業では、主にフランス語未習者を対象に、フランス語の読み・書き・会話の基礎力を養成することをテーマとする。まず表記と発音の関係を理解し、特徴的な音が発音できるように練習を重ねる。文法では、名詞の性と数、不定冠詞・定冠詞・部分冠詞の使い分けを理解し、形容詞の性数一致ができるようにする。動詞ではavoirとêtre、および第一群規則動詞の活用と用法を学ぶ。授業ではコミュニケーションを目的として意識し、CDによる練習やロールプレイを取り入れながら、簡単な挨拶や自己紹介ができるまでになる。	
		フランス語Ⅱ		フランス語Ⅰでの学習内容を復習しつつ、第二群規則動詞finir、日常生活で頻繁に使われる不規則動詞aller、venir、partir、voirなどの活用に見られる共通のパターンを理解して、テンポよく活用ができるようにする。さらに、疑問代名詞・疑問副詞のある疑問文を学ぶことで、対話者どうしのさまざまな状況について情報交換ができるように、CDやロールプレイによる練習を継続する。また、比較級・最上級の表現をマスターし、総合的な言語運用能力の向上を目指す。フランス語検定5級の受験を奨励する。	
		ドイツ語Ⅰ		主にドイツ語未習者を対象に、ドイツ語文法の基礎内容を学習し、ドイツ語圏の歴史や文物などを通じてドイツ語に対する理解をひらくことができるような授業を実施する。具体的な文法事項としては、アルファベートの読み方から発音の確認をはじめ、簡単な挨拶の表現を経て、ドイツ語学習の基本である人称代名詞、動詞の現在形の活用、ドイツ語の語順、冠詞のつかいかたとその活用の習得までを目指す。また、各授業ごとに小テストや易しい文章の読解、作文などを盛り込むことで、ドイツ語の運用能力をバランスよく鍛え、文学作品や映画、ネットメディアなどで実際に用いられる表現などを取り上げることでドイツ語文化圏に対する学生の関心をより高めることを重要なことと考えている。	
		ドイツ語Ⅱ		ドイツ語Ⅰでの学習内容を復習しつつ、基礎文法についてさらに学習を進める。文法事項や単語などを繰り返し確認することで、初級ドイツ語の知識の定着を目指していく。前置詞・語法の助動詞・未来形・不定代名詞などの文法事項を新たに学び、ドイツ語の表現の幅を広げていく。また同時に、様々な資料を通してドイツ語圏の文化に対する理解を深める。動画や音声などを利用した学習により、ドイツ語の音に親しみ、自然なドイツ語の表現を学んでいく。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	言語力育成科目	韓国語Ⅰ		本授業では、主に韓国語未習者を対象に、韓国語文法の基礎内容を学習し、韓国の歴史や文物などを通じて韓国語に対する初歩的な理解を身につけることを目指す。具体的には、文法理解に加え、読み・書き・会話の基礎力を育成することが目標となり、表記と発音の関係を学び、特徴的な発音法を理解し、韓国語学習の基本の習得を目指す。日本と韓国の文化比較や社会事情などに関したテーマを扱い、学生の関心をより高めることを重視していく。	
		韓国語Ⅱ		韓国語Ⅰでの学習内容を復習しつつ、基礎文法についてさらに学習を進め、既習の語彙・文法を復習しながら語彙力・表現力を高める。会話表現については、韓国語の自然なリズムとイントネーションを身に付け、基礎的な「受信・発信」ができる力を身につける。自分のことについて話すことができ、かつ相手についての簡単な質問ができることをめざし、韓国語による会話能力の向上を図る。	
		中国語Ⅰ		本授業では、主に中国語未習者を対象に、中国語の「読む・書く・聞く・話す」の基本的な力を身に着けることを目指す。まず、中国語のピンイン表記法を学び、中国語の声調、母音、子音を正しく聞き取り、かつ正しく発音できるようにし、続いて挨拶表現の練習を通じて中国語の発音に慣れていく。その後、日付、曜日、時間、年の表現や数量表現を学び、動詞述語文、形容詞述語文、名詞述語文、諸否疑問文などの文法事項を学習し、中国語で簡単な意思疎通ができるようにする。	
		中国語Ⅱ		中国語Ⅰで身につけた「読む・書く・聞く・話す」の基本的な力をさらに高めていくことを目指す。中国語における完了・経験・未来および変化を表す用法を助詞と共に学び、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文を学習し、会話練習を通じて定着させていく。また少しまとまった文章を読み、動詞や形容詞、名詞の語彙を増やし、会話の内容を深めバリエーションを広げていく。同時に身に着けた単文の基本文型を組み合わせることで、ややまとまった文章を綴ることができるようにする。	
教養科目	特設科目 留学生	日本語Ⅰ	○	大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を身につけることを目標とする。「読む・書く・聞く・話す」という4技能の習得を目指す。特に講義を聞くための聴解力と、ゼミや研究発表のための口頭表現能力を養うことに重点を置く。同時に日本語能力試験N1レベルの語彙・文型を身につけ、表現力の向上を図る。	
		日本語Ⅱ	○	大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を身につけることを目標とする。「読む・書く・聞く・話す」という4技能の習得を目指す。特に講義を聞くための聴解力と、ゼミや研究発表のための口頭表現能力を養うことに重点を置く。同時に日本語能力試験N1レベルの語彙・文型を身につけ、表現力の向上を図る。また、身近な題材について文章を書くことによって、文を書くことに慣れるとともに、文法的に正しい文を書けるようにする。	
		日本語Ⅲ	○	総合的な日本語力の向上を目指す。特に日本人学生の中でも臆せず自己表現できるよう、聴解力と口頭表現能力を伸ばすことに重点を置く。口頭要約表現や意見表明および論理的に相手を説得する方法を身につける。また、受け身や使役といった態の変化による格助詞の使い方や、組み合わせで用いる慣用表現などに慣れるようにする。この授業では発表とディスカッションを行う。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	特設科目 留学生	日本語Ⅳ	○	パネルディスカッション、グラフを使った意見表明のスピーチ、ディベート（１対１）を通して、聴解力と口頭表現能力をさらに伸ばすことを目標とする。資料の読解、原稿やレポートの作成によって、総合的に日本語力が向上することを目指す。また、引用の仕方や段落について学んだうえで、論文を作成する。自らテーマを決めて調査し、報告する、あるいは自らの論を展開するという論文作成を通じて、さらに日本語能力を高めることを目指す。小論文を書くために必要な文章記述能力を高め、長い文章を書く能力を身につける。この授業ではディスカッションを行う。	
		日本事情Ⅰ	○	本授業は、日本での一般的な生活の実態について学ぶことで、日本に関する基礎的な知識を修得することを目指す。また、日本社会でも特に教育や日常生活などさまざまな場面でみられる日本文化について、これまで得てきた知識を確認しながら、さらにそれを深めていくことを目的とする。具体的には、日本の教育制度、若者の就業意識・日本人の労働意識、年中行事、訪問や食事のマナー、季節のあいさつ、伝統芸能・祭りなど、日本の教育と文化について理解を深める。	
		日本事情Ⅱ	○	本授業は、日本で用いられている文字、あるいはそれを使って書かれた小説をはじめとする文学作品に目を向け、折々の季節に応じた風習、突発的な出来事に対し日本ではどのようにしているか、などについても触れ、日本文化に対する知識を深めることを目標とする。具体的には、手紙文（形式・書き方）、日本の作家や小説、日本の詩人や詩、短歌、俳句、川柳、祝儀、不祝儀、季節のあいさつ（年賀状）、クール・ジャパン、昔話、折り紙など、日本の教育と文化について理解を深める。	
	人間・文化・社会を学ぶ科目	人間と思想		人間とはどのような存在なのか、人間の本質はどのようなものなのかを考察することが本授業の目的である。ギリシア、ヘレニズム、原始キリスト教から中世ルネサンスまでの哲学的知識を紹介し、学んだ学説や概念を使って、現代的な問題についての考察、演習問題を行う。考える材料として西洋哲学を歴史的に学び、かつ現代社会の情報を踏まえつつ、学生が自分で考察ができるようになることを達成目標とする。また、倫理や道徳に関する現代的なテーマについてもとりあげて、知識を増やし、哲学的知識を実践で役立てる方法を講義する。哲学史を覚えるだけでなく、その知識を活用して、現代社会における様々な事象や社会問題との関連の中で人間について考察を深めていくことを目指す。	
		生命の科学		「そもそも私とはなにか？」から問を発し、「私」が生まれてきた道筋である生命の進化を学び、「私」を構成している分子や細胞、DNAについて触れ、生物のからだのつくりや仕組みといった生命科学の基礎知識について学ぶ。さらに生命科学分野の進歩とりわけバイオテクノロジーの医療応用に伴って多様な問題が生じているが、それらの問題解決への道筋、そして我々の未来について考えていく。本授業の内容には女性という視点を取り入れ分かり易く講義する。授業の進め方としては、パワポによる講義だけでなく、教室内で行える簡単な実験・実習などを交えながら、講義内容を具体的に理解できるように工夫していく。	
		倫理学		本授業では、倫理学の概要と現代における倫理的テーマを考察する。具体的には、倫理学の歴史、自由の価値、功利主義、倫理学の現代的展開、科学と倫理、科学の中立性、科学技術と倫理、医療と倫理、終末期医療、人間の尊厳などの諸問題について、事例をあげながら紹介する。これらの学修を通じて、平等や正義に関する哲学的知識を身につけ、倫理的に生きるとはどのようなことなのかを学生自身が考え、議論できるようになることを目指したい。	
		心理学		本授業では、心理学の基礎となる知識や諸理論について概説する。心理学では主に認知、学習等の基礎的な領域と、発達及びパーソナリティについて学習する。はじめに人は外界からどのように情報を得ているのか（第2回）、情報はどのように整理されるのか（第3回）、人の行動の成り立ちについて学ぶ（第4回、5回）。次に乳幼児から高齢期までの心身の成長や変化の特徴（第6回、9-10回）及び発達障害（第7回、8回）について学ぶ。その後、人の個性や特徴の捉え方について学び（第11-13回）、授業全体を通して人の心や行動に関する理解を深める。その他、第14回では心理療法の1つである「認知行動療法」について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	人間・文化・社会を学ぶ科目	生涯学習論Ⅰ		本授業は、生涯学習の意義・目的や定義を学び、生涯学習社会の実現について討論することから始める。また、生涯学習の基礎理論や歴史的背景を学び、生涯学習の多様な在り方についての理解を深める。そして、国際社会が目指す人間像や生涯「学修」の特性を踏まえ、自身の長期的な学修課題について考察を深めていく。そのため、講義毎に「学びのドキュメンテーション」を作成することを求める。自身の学修プロセスの記録や振り返りを通じ、学修課題の明確化に役立ててほしい。	
		生涯学習論Ⅱ		本授業は、生涯学習に関する法制度や行政による振興政策、生涯学習を支える施設や職員の役割を学びながら、自身の学修課題を設定し、生涯学習を進める事業計画案（生涯学習プログラム）を開発・宣伝する活動を行う（自身の学修課題に基づく課題解決型学習とプレゼンテーションを行う）。特に、生涯学習における「青少年教育」を題材とした講義では、生涯学習支援者としての役割の理解を深めるため、体験活動の意義や青少年教育施設の役割を学ぶだけではなく、学習成果の評価や振り返り方法についても学ぶ。	
		日本の文化と歴史		本授業は、日本の古代から近代に至る各時代の、国家の形成と展開、社会や文化の特色、国際関係に関する基礎的知識を修得することを目的とする。具体的には、各時代の政治、経済、社会、文化、国際環境などの特色について、歴史資料や先行研究に基づいて解説し、日本の文化的特徴について学習する。この学びを通じて、時代の変遷を総合的に把握し、考察する歴史的思考力を修得し、現代社会を生きるために必要な基礎力を学習する。学生各自が「歴史」をより深く学ぶことで培った視角や問題認識をもとに、現代日本社会の諸問題も考えることができるようになる。	
		世界の文化と歴史		本授業は、私たちが普段当たり前のものと考えている様々な「権利」と、それらを獲得するために行われた様々な「排除」を結びつけながら学習することで、受講生の思考能力を高めていくことにある。対立する階級、民族、そして国家の中で、人々がどのように権利を獲得したのか。この疑問を考えることにより、受講生自身が持つ「権利」を改めて考える機会を提供していきたい。なお、本授業は主にヨーロッパを中心に世界の歴史を概観していく。	
		日本美術史		本授業は、日本の原始から現代に至る日本美術の展開について、各時代別にテーマを設定し、日本美術史上の名品を軸に、日本美術の基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、絵画・彫刻・工芸の美術品を軸に日本美術の歴史について解説する。この学びを通じて、信仰・各種儀式から生み出された美、建築や工芸にみる多様なデザインなど、日本美術の特徴、さらに日本の美意識に大きな影響を与えた海外文化など、広くその特質を考察する。	
		日本の文化財		本授業は、日本における文化財保護の状況と代表的な文化財について概説し、日本の文化財に関する基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、日本の文化財保護の歩みを踏まえて文化財保存・保護に関する基礎的事項を理解し、博物館の果たしてきた役割や、日本の代表的な文化財の特質を考察し、各時代が生み出した文化財の概要と、その鑑賞・調査方法、および活用方法などを学習する。	
		民俗学		本授業は、日本文化を学ぶ上で基本となる有形・無形の民俗資料について概説し、その読解、調査、整理を行うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、地域文化を理解するために有益な風習・伝説・信仰・芸能・民具等の民俗資料について解説し、学内外での実習を通して、稲城市およびその周辺地域に伝承されてきた民俗資料を事例として取り扱いながら、これらの収集・調査・分類・整理・保存のための方法を実践的に学習する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	人間・文化・社会を学ぶ科目	歴史地理学		本授業は、産業と人びとの暮らしについて、歴史的特徴だけでなく、地域の特徴も視野に入れ見据える視点を養うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、衣食住の世界だけでなく、地域の産業と暮らしについて、それを支える人々を含めて、通史的、立体的な歴史像、地域像について学習し、新たな歴史観、地域観の可能性について学習する。この学びを通じて、地域から文化や歴史を多角的に調査、研究するための基礎知識を修得する。	
		西洋文化史		本授業では、ルネサンス以降の西洋社会における文化を衣・食・住の観点より学び、研究する。文化・生活に関連した装飾美術・工芸の分野にて、その発信地的役割を果たしたイギリス、フランスを中心に、バロック期から20世紀ミッド・センチュリーにおける装飾の歴史を俯瞰し、食であるテーブルウェア（陶磁器・銀器・ガラス）、住である建築と家具、衣であるモード（服飾）、ジュエリー、装飾小物などについて、映像・画像と共に、ものの見方、鑑定眼を身につけられるように研究する。	
		地域文化概論		本授業は、地域社会に残された文化財から地域社会で営まれてきた人々の暮らしに関する知識を修得することを目的とする。具体的には、大学所在地である稲城市の祭礼・年中行事など、地域に残された人々の暮らしの痕跡から見えてくる地域文化について解説する。適宜フィールドワークも実施する。また、地域文化を知識として理解するにとどまらず、自らが地域文化を追求する方法を身につけるために受講者各自の地元を事例として地域文化に関する発表を行う。	
		観光地理（日本）		観光地理という観点から日本各地の観光資源や地域の文化・風物、特産物などについて幅広く学ぶことにより、「旅行」に対して専門的に対応できるよう知識を高める。地図と現地の映像などを利用して、バーチャルな旅行を意識しながら観光資源の特徴、位置関係などを学んでいく。また、講義で取り上げた観光資源の所在都道府県を説明できる知識を得る。	
		観光地理（世界）		本授業は、グローバル化する社会において、世界各地域の様々な観光資源や歴史・文化・習慣・魅力などを学び、国際人としてのしっかりとした幅広い知識を身に付けることを目的とする。また、世界遺産検定や地理検定を受検することも可能となるので、講義の対象となった各国の位置と地形、その国の成り立ち等を理解し、特筆すべき観光資産を合わせて説明できるようにする。	
		世界遺産研究		現在を生きる世界中の人々が過去から現在に引き継ぎ、未来へと伝える責務を負う人類共通の財産である世界遺産について、1972年にユネスコ総会で採択された世界遺産条約に記されている定義、世界遺産の種類、登録の基準と手続きなど基本的な理解を深めるとともに、DVDで登録されている世界遺産を鑑賞する。また、「危機遺産」の調査を通じて、世界遺産活動の現状と課題を考える。	
		法学		私たちの生活は、法によって規律されている。法は社会をよりよく営んでいくための手段であるが、その一方で、時にこれは私たちの生活を厳しく制限する。ゆえに、「秩序」と「正義」という相矛盾しがちな二つの目的について、いかに妥協点を模索するかが法の責務である。本授業では、近代以降の市民社会のあゆみを踏まえて、「法とは何か」ということをていねいに伝えていく。身近な裁判例なども紹介し、新聞やテレビの社会問題などについて、結論を急がずに考えるためのきっかけを作り、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標としたい。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	人間・文化・社会を学ぶ科目	数学の世界		数学というと敬遠しがちな科目の代表格であるが、実は、数学は哲学とも結び付く、人間の本質と深い関わりをもった学問である。本授業は、まず数学の楽しさ、奥深さについて講義する。その後、社会に出てからも役立つような数学の基礎を講じる。具体的には、数と式（整式・因数分解、一次方程式・連立方程式）、関数（一次関数、二次関数、二次方程式）、図形の性質（合同・相似・三平方の定理、円の性質）、図形と計量（三角比、三角関数、三角形への応用）、場合の数（順列・組合せ）、確率、整数の性質（約数と倍数）等について学ぶ。	
		物理の世界		物理の考え方は生活に溶けこみ、日頃意識されることはほとんどない。しかし、物理学は、物質を極限まで突き詰めていくと宇宙創成の問題にまで展開するようなダイナミズムを秘めた学問である。本授業では、目には直接見えない「力」の物理現象について議論を深めたい。加速度、遠心力などの物理学的な理解からはじまり、構造、剛性、耐震についての考え方と、その大きさを計算する手法を平易に講義する。具体的には、物理学で扱う単位と数学的知識、物体の運動、力学、仕事とエネルギー、熱とエネルギー、音とは何か、電気とは何か、身の回りの物理学等について学ぶ。	
		生物と生命		生物学、生態学、人類学、環境科学をディシプリンとして、ヒトを中心とした生物と環境との関りを学ぶとともに、人間が営む脱生物学的活動が生態系サービスにどのような影響を与え、その結果引き起こされる環境問題についても学ぶ。さらに、人類存続が可能な関係を再構築するために「科学リテラシー」を身に着けることの必要性を理解する。授業の進め方としては、パワポによる講義だけでなく、教室内で行える簡単な実験・実習などを交えながら、講義内容を具体的に理解できるように工夫していく。	
		色彩と科学		本授業は、視覚コミュニケーションの基本的要素である色彩の本質を理解し、色彩が心理的、社会的、文化的に果すさまざまな役割について科学的理解を深める。色彩をコミュニケーションツールとして扱う上での基本的理論の習得に加え、視覚的な課題により豊かな色彩表現のための感性を養う。文部科学省後援の色彩士検定を視野に入れて主要項目の解説を行い資格取得を支援していきたい。色を扱う基礎知識として、色の表示、伝達の方法を理解するとともに、課題作成を通して基本的色彩技法を習得することを目指す。	
		スポーツⅠ		健康・体力づくりは、国民全体の大きな課題となっている。この科目の目標は、スポーツその他の身体運動（体操・バドミントン・バレーボール）を通して継続できるスポーツを選択しながら、健康志向への動機付けを図り、それらの実践に関する知識や技術を得ると共に、その方法を自分自身に当てはめ、応用展開する能力を体験して養ってもらうことである。スポーツ文化に親しむとともに、健康維持のため、スポーツに楽しく取り組む姿勢を作ることが最大のねらいである。	
		スポーツⅡ		自分の身体とは一生つきあって行かねばならない。そして健康を維持する事が幸せにつながる。更になりたい自分の身体づくりをすることは楽しさにもつながる。脂肪燃焼の仕方、筋肉の適正な付け方、きれいな姿勢など身体を意識していく。本授業では、ソフトバレーボール・卓球・軽スポーツなどを行う。スポーツ文化に親しむとともに、健康維持のため、スポーツに楽しく取り組む姿勢を作ることが最大のねらいである。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	基本科目	空間デザインの基礎Ⅰ	○	「大学と地域との関わり、大学生活をより豊かに」をテーマに、主体的な学習の方法を体得する。地域の産官学協力の一環として、ポスターデザインをはじめとした各種デザインに取り組み、多彩な表現力を習得する。また、学内の文化祭や地域イベントの展示空間提案などの共同作業をとおして、デザインの基礎を実践しながら、共同作業を潤滑に行う力を養う。自分の考えを表現すること、伝達すること、批評することなどを、課題を通して学びながら、プレゼンテーションにおける基礎的な技術を身につける。	共同
		空間デザインの基礎Ⅱ	○	「大学と地域との関わり、大学生活をより豊かに」をテーマに、主体的な学習の方法を体得する。地域の産官学協力の一環として、ポスターデザインをはじめとした各種デザインに取り組み、多彩な表現力を習得する。また、学内の文化祭や地域イベントの展示空間提案などの共同作業をとおして、デザインの基礎を実践しながら、共同作業を潤滑に行う力を養う。自分の考えを表現すること、伝達すること、批評することなどを、課題をとおして学びながら、プレゼンテーションにおける自己の能力を発見し、より高めていく。	共同
		平面と立体表現の基礎	○	基本的な立体の構成を通して三次元としての建築空間について理解し、三次元による表現技法の基礎を学ぶ。連続する建築空間の構成を考えることにより、三次元で空間を認識する習慣を身につける。それと同時に、三次元としての建築空間を二次元で表現する技法を学ぶ。課題を通じて空間構成や三次元的空間認識力を高め、空間を三次元で思考する力と空間を多様な手法で表現する力を養う。また、材料や道具の基本的な使用方法を習得する。	共同
		製図の基礎	○	図面による建築空間の理解と図面表現の基礎的技術を学ぶことを目的とする。企画・計画・設計・施工の一連の設計活動において、図面は最も重要な表現手段の1つであり、伝達手段である。建築図面の読み方を学び、図面から空間を正確に把握できるようにする。また、建築図面のトレース作業を通して、正確な図面表現技術の基礎を習得する。図面が示す空間を正しく理解すると同時に、図面の種類に応じて空間を正確に図面化する手法を身につける。	共同
		図学と透視画の基礎	○	空間や立体を正しく図面に表現する方法を、図法幾何学に沿って学ぶ。特に、建築・インテリア・造形に必要な透視図法（パース図法）による内観・外観の空間表現を中心に進める。また、デザインの検証やプレゼンテーションに使用する、パース図の着色表現技術を習得する。図面が示す空間や立体を正しく理解し、空間や立体を正確に図面化する手法を身につける。さらに、空間や立体に相応しい表現方法を選択し、表現することができる技術を身につける。	共同
		建築・インテリアデザイン入門	○	建築・インテリアデザイン計画の基礎的なプロセスと考え方について学ぶ。日本の近代・現代における住宅作品を題材にして、住宅の建築計画の手法を習得する。また、身近な空間のスケール感を身につけ、インテリアの計画手法についても習得する。図面の読み方や寸法計画、動線計画、環境計画、内装計画など、空間をデザインする際のプロセスの基礎についての理解を深めることにより、建築やインテリアデザインを多面的な視点から捉える力を養う。	共同
		プロダクトデザイン入門	○	プロダクトデザインの背景、社会との関連性、デザインプロセス、ユーザー調査のための手法とデータの分析、コンセプト作成のための手法などプロダクトをデザインする際に必要な基礎を学ぶ。また、プロダクトの中で建築・インテリアデザインの観点から「くらしの環境」と関連性が高い陶芸デザイン、テキスタイルデザイン、家具デザインの特性および活用について事例を通して学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	基本科目	設計製図Ⅰ	○	小店舗を併用した住宅の計画及び設計を行うことにより、建築設計の基礎を習得する。また、小店舗部分についてはインテリアの計画を行い、詳細な素材や造作についての知識や計画手法を身につける。敷地分析から事例研究、建築計画、建築設計、インテリア計画まで、建物のトータルなデザインスキルを習得することを目指す。建築やインテリアの図面作成方法やプレゼンテーション手法なども習得し、建築・インテリアを設計する際の表現力を磨く。	共同
		設計製図Ⅱ	○	シェアハウスの計画及び設計を行うことにより、建築設計の技術を習得する。平面・断面計画や動線計画、インテリア計画などを踏まえた建物の計画・設計スキルを習得する。敷地分析から事例研究、建築計画、建築設計、インテリア計画、ランドスケープデザインまで、建物のトータルなデザインスキルを習得することを目指す。建築やインテリアの図面作成方法やプレゼンテーション手法なども習得し、建築・インテリアを設計する際の表現力を磨く。	共同
		グラフィックデザイン		視覚による情報伝達の原理原則を知り、グラフィックデザインの基礎的技法を修得する。同時に、多彩な平面表現をさまざまな事例を通して学び、文字や画像や記号などのグラフィック要素や各々の伝達効果の差異を理解することで、平面表現と空間表現に広く応用できるグラフィックデザインの知識と技術を養う。	
		福祉住環境デザイン		福祉と住環境の関連する分野についての基礎的な知識を身につけ、高齢者や障害者にとって住みやすい住環境を整備するための手法を習得することとする。またその背景にある社会制度などについての基礎的な知識を習得する。具体的には、住まいの整備のための基本技術、高齢期の住まい方、福祉のまちづくりなどについて講義を行う。東京商工会議所が主催する福祉住環境コーディネーター検定試験を視野に入れ、資格取得を支援していきたい。	
		環境デザイン		本授業は、持続可能な発展（サステナブル・ディベロップメント）を理解するため、地球の生態系保全（エコロジー）について考える「地球環境」の基礎知識を踏まえ、住宅や建築物における人間の快適性を追求する「生活環境」に重点を置いた「環境デザイン」を学ぶ。建築をとりまく環境を様々な側面から捉えて理解し、これからの循環型社会、持続可能な社会づくりに主体的に参画できるよう、応用力をつけていきたい。	
		色彩デザイン		色は人の心にどのように働きかけ、どのような影響を与えるか、造形要素としての色彩の本質を心理学的側面から理解し、人や環境と調和する豊かな色彩表現のあり方を考える。理論の習得に加え、色の連想、イメージ、象徴、流行を文化的背景や調査データから理解し、また配色カードによる課題作成を通して基本的色彩技法の習得を促す。文部科学省後援の色彩士検定を視野に入れ、重要事項の解説を行い資格取得を支援していきたい。	
		エクステリアデザイン		景観との調和をとりながら、同時に快適で豊かな住・生活環境の向上を実現するものがエクステリアデザインである。ライフスタイルの変化や環境への意識が高まるとともに、エクステリアの重要性が認識され、室内（インテリア）と外部空間（エクステリア）を一体で計画することが求められる。この授業ではエクステリアデザインの基礎知識や具体的なデザイン手法を、多くの事例を通して習得することを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	基本科目	CAD I	○	建築設計やインテリアデザイン、プロダクトデザインなどの分野で一般的となっているコンピュータによる作図（CAD：キャド、Computer Aided Design）技術の基礎を学ぶ。CADソフトは「VectorWorks」（エーアンドエー株式会社）を使用する。「VectorWorks」による二次元作図の基礎的な機能を習得し、一般的な平面図や断面図の作図ができる技術を身につける。	共同
		CAD II	○	建築設計やインテリアデザイン、プロダクトデザインなどの分野で一般的となっているコンピュータによる作図（CAD：キャド、Computer Aided Design）技術を学ぶ。CADソフト「VectorWorks」（エーアンドエー株式会社）を用いて、3Dの基本操作を学び、住宅や商業施設などの建築物のモデリングやプレゼンテーション技術を習得する。テキストの指示通りのモデリングができるようになるとともに、与えられた課題について、独力でモデリングができるようになることを目指す。	共同
		CAD III		建築設計やインテリアデザイン、プロダクトデザインなどの分野で一般的となっているコンピュータによる作図（CAD：キャド、Computer Aided Design）技術を学ぶ。CADソフト「VectorWorks」（エーアンドエー株式会社）を用いて、3Dの操作を学び、三次元データをCGにするための技術を習得する。さらに、「VectorWorks」を用いて、建築やインテリアなどのプレゼンテーション資料をまとめることができるようになることを目指す。	共同
		プレゼンテーション技法		「CAD I ・ II」で習得してきたCADソフト「VectorWorks」（エーアンドエー株式会社）を用いて2Dや3Dの作図における応用技術を習得する。 「VectorWorks」だけでなく、グラフィックソフトである「イラストレーター」や「フォトショップ」などを用いたプレゼンテーション技術を習得する。「VectorWorks」の技能に加え、手書きスケッチ、グラフィックソフト等を融合することにより、建築やインテリアなどのプレゼンテーション能力の向上を目指す。	共同
		インターンシップ入門		学生が、企業・公共組織などでの社会活動の体験をとおしてその社会性を養うインターンシップの目的を明確にし、実習への心がまえを学ぶ。自分自身を見つめ直し、今後の進路選択に生かす。また、実社会での体験に向けて新たな学習意欲を喚起し、自主的に考えて行動できる力を養うとともに、社会人として必要なコミュニケーション能力を向上させる。	共同
		インターンシップ実習		学生が、企業・公共組織などでの社会活動の体験をとおして、その社会性を養う。企業におもむき、学校での学習・研究の成果や自身の生き方が社会でどのように評価されるかを体験し、自分自身を見つめ直し、今後の進路選択に生かす。また、実社会での体験から新たな学習意欲を喚起し、自主的に考えて行動できる力を養うとともに、社会人として必要なコミュニケーション能力を向上させる。	共同
		フィールドワーク		特色ある地方を訪ね、伝統的な建築や著名建築家およびアーティストによる現代建築などを見学し、芸術、工芸、食文化などを実際に体験・体感する事により、地方における衣・食・住の生活文化について調査・研究する事を目的とする。事前に的確な計画を立て、見学先についての事前調査を実施する。フィールドワークでは適切な判断の下に行動し、必要な情報を収集・整理する。フィールド調査後にはその成果をまとめ、明快な報告書を作成する。	共同

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	インテリアデザインコース科目	インテリアデザインⅠ	○	飲食店舗にはレストラン、カフェ、バー、屋台などのさまざまな種類と特徴がある。課題を通して、用途や条件をふまえた飲食店舗のインテリアデザインの設計プロセスを習得する。課題の主旨を正しく理解し、設計条件を踏まえながら、飲食店舗の機能や要素を計画する。飲食店におけるインテリア設計の基本知識などを総合的に習得し、インテリアの目的に合う適切な手法で、空間を正確に表現し、さらにその内容を人に的確に伝えられるようになることを目標とする。	共同
		インテリアデザインⅡ	○	ホテルは単に宿泊する機能だけでなく、ロビー、レストラン、バー、物販、式典、会合など、さまざまな用途施設の複合空間である。課題を通して、ホテルの立地条件や客層をふまえた具体的なインテリアデザインの企画提案と設計プロセスを習得する。課題の主旨を正しく理解し、設計条件を踏まえ、宿泊室などの機能や要素を理解したうえで、パブリック部分を含めたホテルにおけるインテリア設計の基礎知識などを総合的に習得することを目標とする。	共同
		インテリアデザイン論	○	インテリア空間を理解し、空間のデザインを促すための授業である。インテリア空間をデザインするためには、さまざまなインテリアの要素、要因などの知識が必要である。要素、要因の観点は多種多様であるが、この授業では、空間の考え方と有り様を中心に論ずる。その内容について各自が問題意識を持ち、研究・習得する。インテリアデザインを考える上で必要な知識を幅広く身につけ、それらの知識を踏まえて、インテリア空間を自分の視点で正確に読み取り、的確に表現できることを目標とする。	
		インテリアデザイン計画A (住居・店舗)	○	インテリア空間を形（造形）や機能としてとらえるだけでなく、光・音・香り・映像・会話、そして朝・昼・晩といった時間の経過を含む「情景／シーン」として考察する。「コンセプト」や「ターゲット設定」などの重要性とそれらの構築方法を理解することを目的とする。実測や空間体験を通して、インテリアの材質感やスケール感覚などを理解し、身につける。住空間や店舗空間を中心にインテリアデザイン計画の基本的知識を習得することを目的とする。	
		インテリアデザイン計画B (商業・宿泊施設)	○	インテリア空間を形（造形）や機能としてとらえるだけでなく、光・音・香り・映像・会話そして朝・昼・晩といった時間の経過を含む「情景／シーン」として考察する。同時にインテリアデザインの前提となる「コンセプト」や「ターゲット設定」などの重要性とそれらの構築方法を理解することを目的とする。大型商業施設、ホテル空間を中心にインテリアデザイン計画の基本的知識を習得することを目的とする。	
		インテリアデザイン計画C (福祉施設)	○	インテリア空間を形（造形）や機能としてとらえるだけでなく、光・音・香り・映像・会話そして朝・昼・晩といった時間の経過を含む「情景／シーン」として考察する。「コンセプト」や「ターゲット設定」などの重要性とそれらの構築方法を理解することを目的とする。児童施設、高齢者施設、福祉施設などの公共空間を中心にインテリアデザイン計画の基本的知識を習得することを目的とする。	
		家具・陶芸・テキスタイルデザイン入門		3種類の自然素材を使い、プロダクトデザインの基本を学ぶことを目標とする。3グループで交互に3種類の内容を学ぶ。 ・家具デザイン（5回）木材を使い、家具の立体的な構造や構成を考え、道具の使い方と制作方法の基本を学ぶ。 ・陶芸デザイン（5回）土を使い、手びねりや玉づくり、そして絵付けや窯詰めまで陶芸制作の基本を経験する。 ・テキスタイルデザイン（5回）繊維を使い、素材の特性・色・組織について学び、織造形の基本を経験する。	共同

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	インテリアデザインコース科目	家具デザインⅠ		空間デザインの重要な要素である家具デザインの、主要な材料となる木材について、素材の特性や加工方法などについて学ぶ。基本的な木材の特徴を理解することを目指す。また、デザインし、制作するために必要となる基本的な家具図の描き方について、CADソフト「VectorWorks」（エーアンドエー株式会社）を使いながら学び、さらに家具の模型の作り方や手工具を中心に道具の使い方と制作方法を学ぶ。	共同
		家具デザインⅡ		わたしたちの生活に欠かせない一番身近なすわるための道具「いす」について考える。生活の道具として本当に座りやすく、且つ美しい「すわるかかち」とはどんなものなのかということを学ぶ。合板という素材の特性を理解しながら「すわる」という人の行為を支えるためのかたちについて考え、実際に制作してみることでその考察を検証する。問題の発見からイメージの展開、そして具体化とプレゼンテーション、さらに制作と実証とデザインにおけるプロセスを体験する。	共同
		プロダクトデザイン研究		地域貢献としてのプロダクトデザインを考える。社会との関わりを意識したもののデザインを考えることに重点を置き、デザインが地域の人々の集う場としてふさわしい環境を生み出せるかどうかを研究する。具体的に場所と使う人々を設定し、その条件を踏まえて安全で快適に使用できるデザインを考える。	
		陶芸デザインⅠ		陶磁制作で基本的な技法であるロクロ成形技術及び知識の習得と表現の研究・修練を目的とする。日常生活で最もよく使われる飯碗とその絵付けを研究し制作する。弁柄・呉須で下絵付けをする。食生活に欠かせない器をデザインする時の要素である形、大きさ、重さ、色、柄、収納性、食べ物との関係、いい雰囲気、魅力等をバランスよく考える。飯碗にはどんなものがあるか？たくさん見て触って調査、資料を集める。制作した飯碗は自分で毎日使って使い心地を確かめる。また他人から感想を聞き研究する。	共同
		陶芸デザインⅡ		陶磁における代表的な成形法、板作りを研究する。タタラ（粘土板）技法を用いて器物を考える。2～10mmのタタラは柔らかいうちに丸めたり、型に押しつけて変形させることが出来る。変形しない状態まで少し乾かすと、板として張り合わせて形を作ることができる。草花や苔、ドライフラワーまで植物の中から1つを選び、そのための花器をデザイン制作する。好きな場所を選び、いい空間設定を提案する。タタラ成形技法の理解と、設定空間に対して調和する器物の研究が目的である。	共同
		テキスタイルデザインⅠ		伝統工芸を未来に繋げていく事が出来るか、デザインワークを通して研究、考察する。物を生みだすためのコンセプトをつくる。制作実習は「裂き織り」を行う。「裂き織り」とは、糸の代わりに細く裂いたものを緯（よこ）糸にした織物である。伝統工芸にデザインを加えることにより、現代生活に生かし伝承させていく方法について考える。織機や木枠の構造やその仕組みについて理解する。コンセプトを立案し、デザインスケッチを描き、制作する「裂き織り」の過程について学ぶ。	
		テキスタイルデザインⅡ		テキスタイルと他素材との組み合わせについて学ぶ。「住生活におけるテキスタイル」をテーマにコンセプトを立案し、素材や色、質感について考察し、制作実習を行う。様々な素材を用いることにより、テキスタイルに対する理解を深める。自らが素材や色・質感などを選択しながらコンセプトを立案し、デザインスケッチを描き、制作するテキスタイルデザインの過程について学ぶ。制作したもののプレゼンテーション手法を考え、習得する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	インテリアデザインコース科目	インテリア・プレゼンテーション		インテリアデザインを行う上で欠かせないプレゼンテーションの手法と技術の基本を修得する。ショップデザインを課題とした学外コンペティションにチャレンジする。立地も各自で設定し、周囲の環境との関係を考察する。業種により異なる要求機能について研究し理解した上で、デザインのにも美しく、機能的なショップをデザインする事とする。また、授業ではディスカッションやグループ発表などを実施する。	共同
		インテリア材料学		素材と加工方法の知識は、建築／インテリア／プロダクトの全ての領域にまたがる重要な要素である。この授業では身近な素材を切り口にして、その特性や加工技術によるデザインの可能性をテーマに、環境問題に絡めながら学習する。また、講義、デザイン演習、製作、実験という体験型の授業や素材に実際に触れながら学ぶことで経験的に知識を身に付ける。	
		芸術論		多くの「もの」が溢れ、芸術の境界が曖昧な現代社会において、芸術とその背景となる世界との関係を探りながら、その真価・可能性を見つめなおす。ここでは西欧の各時代の特徴的な絵画や彫刻、建築、ランドスケープを多く鑑賞し、それらの基盤となる社会的・思想的な背景を照合させて理解していく。時代・場所を超えて真の芸術がもつ意味を考える。芸術全般について、その背景にある歴史・思想・技術などとの関係を理解したうえで、芸術の真価を見つめなおす。	
		工芸デザイン論		西欧と日本の近現代を中心とする工芸デザインを多角的に考察し、現在の生活・芸術に直結する近代以降の工芸理論とその実践活動を理解する。社会・文化・産業の動向と工芸デザインとの関連性・可能性を照らし合わせ、ものづくりによるこれからの課題や真の豊かさについて検討する。工芸理論とその実践活動を考えることで、関心をもって、これからの工芸デザインの可能性や伝統との向き合い方を考えられるようになることを目標とする。	
		インテリアプロダクト論		現代の住空間は様々なインテリアプロダクトによって構成され、機能している。この授業では、それら様々なインテリアプロダクトの知識とともに住空間との関係を考え学んでいく。授業では、演習課題や課題発表などのワークと共に、実際のインテリアプロダクトをできるだけ体験をして、理解を深めていく。	
		デザインと心理		デザインを見て感じたり考えたりすることを心の働きとして捉える。人間の視覚・認知のしくみや、空間やモノを利用すること、創り出すことにかかわる心理学の基礎を学ぶ。心理学の立場から見た空間デザインやプロダクトデザインの事例を通して、デザインの分野における心理学の応用について考えることを目的とする。	
		インテリア・グラフィックス		グラフィックデザインで学んだ知識を空間デザインへ応用する。さまざまな事例を通して空間におけるグラフィック表現の手法を学び、ピクトサインや商品パッケージなどのデザインについて理解を深めることで、インテリアデザインや建築デザインの実技に応用できる知識と技術を養う。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	インテリアデザインコース科目	インテリア・ライティング		人間の持つ感覚の中で、視覚がその情報の9割近くを占めている。その視覚を喚起するエネルギーである光について、自然光から人類が手にして創りだしてきた照明まで、照明工学の基礎知識から、建築照明デザインの実務の流れまでを俯瞰する。また、これら光エネルギーの芸術、デザインへの応用について、その歴史及び最新技術についても学ぶ。	
		インテリアの知識と技術Ⅰ		学科の科目で学んだ内容を生かし、建築士やインテリアプランナー、インテリアコーディネーターなどを目指す際に必要となるインテリア空間に関わる基本知識と技術への総合的理解を深める。住空間のインテリアをデザインするために不可欠となる基本的かつ幅広い知識とインテリア計画技術の内容について理解し、習得する。特に、インテリアコーディネーターやインテリアプランナー、建築士などの学科試験に対応できる知識を身につける。	
		インテリアの知識と技術Ⅱ		学科の科目で学んだ内容を生かし、建築士やインテリアプランナー、インテリアコーディネーター等を目指す際に必要となるインテリア空間に関わる知識と技術について、実践的な問題演習をとおして学ぶ。住空間のインテリアをデザインするために不可欠となる基本的かつ幅広い知識とインテリア計画技術の内容について理解し、習得する。問題演習による学習を重ねることにより、特に、インテリアコーディネーターやインテリアプランナー、建築士などの資格取得に対応できる力を身につける。	
	建築デザインコース科目	建築デザインⅠ	○	「設計製図Ⅰ、Ⅱ」で学んだ建築設計の技術を基に、小規模な集合住宅の計画及び設計を行う。そのテーマは住居の内部空間だけではなく住戸と住戸の関係、及び住戸と外部空間の関係を考えることにある。建築単体のあり方だけではなく外部空間や環境とのつながりを考えることの重要性を学ぶ。また、外部空間を考えるトレーニングとして短期課題を行う。短期課題を通してプレゼンテーションまでのプロセスを具体的に把握し、デザインプロセスと作業プロセスのコントロールの課程を学ぶ事を目標とする。	共同
		建築デザインⅡ	○	「建築デザインⅠ」で学んだ技術を踏まえ、より複雑な建築的課題に取り組み、より高度な提案とプレゼンテーションスキルを目指す。具体的には「建築デザインⅠ」で設計した小規模集合住宅を発展させ、都市的な環境の中で、複合的な機能をもった建物の計画提案を通じて、都市における建築物の今日的あり方を考え、学ぶ。また、パブリックな空間を考えるトレーニングとして短期課題を行う。複雑になる課題内容をコントロールし、デザインコンセプトを問題解決に導く要因として構築する方法を学ぶ。	共同
		建築デザイン論	○	日本及び海外の住宅や建築の事例紹介を通じて「建築デザイン」とは何かを考えて行く。具体的には平面計画と様々な外的・内的与条件の関係や、住空間及び建築空間に対する考え方を学ぶ。日本の現代住宅建築の基礎を築いた建築家の代表的作品に対する基礎的な知識を習得し、20世紀モダニズム建築を切り開いた近代建築の巨匠たちの作品とその歴史的価値を学ぶ。以上の事を踏まえて現代建築を切り開いている建築家たちの作品の建築的意味を理解する事を目標とする。	
		建築計画A（独立住宅）	○	建築物の中で最も歴史が古く、また、人間が一生の中で多くの時間を過ごす「住宅」。建築設計の基本でありながら、一方で深く難しいともいわれる「住宅設計」を題材に、建築計画に必要な知識や方法を修得し、建築設計の基礎を学ぶ。敷地環境の分析から、動線計画、食空間・パブリック空間・プライベート空間の計画、収納計画などについて学ぶとともに、ユニバーサルデザインについても考える。また、名作といわれる住宅建築についての知識を広げる。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	建築デザインコース科目	建築計画B（集合住宅）	○	住空間の建築計画において主に集合住宅に視点をあて、その計画・設計に関する基礎的な知識を習得することを目的とする。国内外の集合住宅の事例について、建築計画の視点から分析・考察できるようになることを目指す。また、住空間を幅広い視点で捉え、子どもの居場所としての学校や、患者・高齢者など居場所としての医療・高齢者福祉施設の計画・設計についての基礎的な知識を習得するとともに、国内外の事例について分析、考察する。	
		建築計画C（公共建築）	○	「建築計画A」「建築計画B」のテーマであった住空間についての建築計画的知識の習得をふまえて、より公共的、複合的な機能を持った施設の建築計画の分析を事例研究とともに行う。そのうえで、都市の中での公共的建築の建築計画の意味、内容を考察していく。具体的には美術館、図書館、博物館、コミュニティ施設などの公共的、複合的な建築物を対象として、建築計画の基礎知識を習得し、建築事例の研究・考察を行うことを目標とする。	
		建築計画D（計画総合）		「建築計画A」「建築計画B」「建築計画C」で習得した建築計画的知識を踏まえて、様々なビルディングタイプについて、より実践的な事例の研究・考察を行う。その上で、建築史・建築構造・建築法規・環境・設備等の関連科目との関わりを総合的に学ぶことで、建築分野全体への理解を深めることを目標とする。さらには「一級建築士」「二級建築士」「インテリアコーディネーター」などの学科試験にも対応できるような応用力を身につける。	
		構造力学Ⅰ		基本的な建築構造力学の講義により、建築物を計画・設計・施工するために必要となる建築構造力学の知識を習得することを目標とする。静定構造物を中心に荷重・外力のモデル化、応力や変形の性質を学ぶ。モーメントの概念、部材の伸縮・応力度・ひずみ、トラスの原理などについて理解する。設定された構造モデルにおける、部材の断面算定が数値的にできることを目指す。演習問題を繰り返すことにより、建築構造力学に対する理解を深める。	
		構造力学Ⅱ		建築物を計画・設計・施工するために必要となる建築構造力学の知識、すなわち、力の流れや構造のしくみ、構造材料の特質などの力学的な知識と理解力を習得することを目標とする。トラスの種類や解法、応力度、不静定構造物などについて理解する。設定された構造モデルにおける、部材の断面算定が数値的にできることを目指す。それと同時に、部材内の応力度について理解を深めることを目指す。演習問題を繰り返すことにより、建築構造力学に対する理解を深める。	
		建築構造Ⅰ		建築の空間は構造体や設備が一体となって実現できるものである。空間を形作る種々の構造体の概念と成り立ちを理解する。「建築構造Ⅰ」では、木造建物を中心に、建築物の成り立ちについて理解を深めることを目標とする。木材の性質や構造原理、木造の小屋組・軸組、地盤・基礎、屋根の形状、壁の構造、集成材などについての知識を習得し、理解を深めることを目指す。また、歴史的建造物や近代建築、民家などの構造についても理解する。	
		建築構造Ⅱ		建物は材料と構法の組み合わせによって成立するものである。建物の設計において、建物に要求される断面・材料の基本を身につける。「建築構造Ⅱ」では、鋼構造及び鉄筋コンクリート構建造物を中心に、建物の成り立ちと特徴を理解することを目指す。鋼材の性質や構造原理、鉄骨構造の骨組、鉄骨構造の継手や筋かい、鉄筋コンクリートの構造形式や柱・梁配筋などについての知識を習得し、理解を深める。また、鉄骨鉄筋コンクリート構造やPC構造などの基礎知識についても理解する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	建築デザインコース科目	日本建築史		自然・社会・文化との密接な関わりのなかで、日本建築がいかに発展してきたかを概観し、その技術や意匠、様式上の特質について理解する。身近に接し鑑賞できる近代・現代の日本建築・都市などにも視野を拡げて考察する。日本建築についての様式上の特質や意匠、技術について理解を深め、関心をもって、自分自身の日本建築に対する考えを持つようにすることを目指す。日本の住様式から神社・寺院建築などについて、古代の飛鳥・奈良時代から江戸時代、そして近現代まで時代とともに学ぶ。	
		西洋建築史		西欧の建築・都市を古代から時代ごとに考察し、広い視野をもって世界の建築に対する関心を高めるようにする。建築や都市をその基底となる社会・文化と合わせて歴史的に理解すると同時に、専門的な理解を深めていく。西欧の建築について、様式や意匠、技術などの特徴を理解し、広い視野をもつと同時に、自分自身との関わりを考え、関心を持つようにすることを目指す。古代ギリシアから古代ローマ、ビザンティン、ロマネスク、ゴシック、ルネサンス、バロックなど、時代ごとの建築様式に対する理解を深める。	
		ランドスケープ論		環境に対する関心の高まりにともない、建物の積極的な緑化計画も進められ、街の風景が少しずつ変化してきている。本授業では、ランドスケープの基礎知識や具体的なデザイン手法を習得し、住宅や街並みのランドスケープを通して、今後どのように環境に対してアプローチしていくべきかを考察する。ランドスケープの歴史やデザイン手法を通じて、私たちを取り巻く環境を多面的に考察できる能力を身につける。	
		建築環境設備		「健康」で「快適な」室内環境を形成するために必要な「建築設備」について理論やシステムの基礎知識を習得する。前半では空気調和設備・換気設備を、後半では給排水・衛生設備・その他の設備について解説する。特に、省エネルギー・省資源、建築デザインとの関連を理解することを目指す。快適な生活の実現の為に建築設備がどのように寄与しているのか理解するとともに、発展を続ける建築設備の今後の方向性と課題について考えていく姿勢を身につける。	
		環境工学		人体周辺環境から室内環境、都市環境に至るまで一口に「建築環境」といっても広い定義を持っている。その中で、建築の環境を作り出している諸要因について基礎的な知識と理解を深める。気候・温熱・空気・音環境などの物理環境要素を建築物へ取り込む技術手法を交えながら講義する。建築の気候・光・温熱・空気・音環境などに関する基礎的な知識を習得し、人や建築などを取り巻く環境について自ら考察することができる力を身につける。	
		建築材料		建築物は、材料の組み合わせによって構成されており、材料に関する知識は建築を学ぶ者にとって重要である。ただし、単に個々の材料の性質を知るだけでは不十分であり、なぜそこにその材料が使用されているのかを理解する必要がある。構造材料の講義においては、主に材料の力学的性質について解説する。一方、屋根、壁、床といった部位構成材では、各部位に求められる機能・性能を知るとともに、そこに使用される材料の構成や基本的性質についても解説する。	
		建築生産		経済的、社会的、技術的な観点から建築物の企画・設計・施工・運用管理・最終処分を包括した建築生産及びそのプロセスについて講述する。建築生産のしくみと発注者と受注者との係りを学び、一連の施工技術と施工管理マネジメント技術を習得する。建築プロジェクトの経済行為としての意義、建設産業構造の実情について理解する。建築プロジェクトにおける企画／発注と企画／設計と監理／コスト管理／施工管理／解体の各内容を理解し、生産プロセスとしての特徴を習得する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	建築デザインコース科目	都市デザイン論		都市デザインには都市空間を成立させる基本的なルールである都市計画への理解が必要である。都市計画は私たちの生活を支える技術のひとつであり、暮らしやすい都市や住環境整備には欠かせないものである。本講義では建築する際に必要となる都市計画に関する基礎的な考え方や手法について学ぶ。	
		建築法規Ⅰ		住宅やビルを建築するには建築基準法等の各種の法規に適合しなければならない。そして、これらの法規制に適合していることを確認することが建築確認制度である。「建築法規Ⅰ」では、この建築確認制度を含む「制度および手続き」から勉強を始め、次に、個々の建築物に係る規定（単体規定）について講義と演習で学ぶ。建築基準法で用いる用語を覚え、単体規定の概要を理解する。建築物が、単体規定に適合しているかどうかの確認ができるようになることを目標とする。	
		建築法規Ⅱ		建築基準法の第3章「都市計画区域等における建築物の敷地、構造、建築設備及び用途」は、一般に集団規定と呼ばれ、道路と建築物、道路と敷地、用途地域制、形態制限、建ぺい率、容積率、各種高さ制限、防火地域制、優良な市街地環境の整備のための各種制度などが規定されている。「建築法規Ⅱ」では、この集団規定を講義と演習で学び、最後に建築確認申請書の作成を通じて、建築法規を使うことを学ぶ。関連の法規として品確法を主に学ぶ。集団規定の概要を理解し、都市における集団規定の果たす役割を把握する。	
	専門ゼミ科目	インテリアデザインゼミⅠ	○	2年次までの学びを踏まえ、インテリアデザインの領域を中心に、関心や興味のあるテーマを選定する。テーマに基づき、事例研究やデザイン活動などをおして研究・考察する。それらの成果のまとめるとともに、4年次のゼミへ向けて、選択する専門分野の知識を深める。さらに、発表を通して、プレゼンテーション能力などを高めることを目的とする。また、社会人基礎力を高めるために必要な知識の習得や自己管理能力などの向上を目指す。	
		インテリアデザインゼミⅡ	○	「インテリアデザインゼミⅠ」に引き続き、インテリアデザインの領域を中心に、関心や興味のあるテーマを選定する。テーマに基づき、事例研究やデザイン活動などをおして研究・考察する。それらの成果のまとめるとともに、4年次のゼミへ向けて、選択する専門分野の知識を深める。さらに、発表を通して、プレゼンテーション能力などを高めることを目的とする。また、社会で求められる主体性や問題解決力、チームワーク力などの向上を目指す。	
		インテリアデザインゼミⅢ	○	インテリアデザインの領域を中心に、関心や興味のあるテーマを選定し、そのテーマに基づいた研究計画を立案する。各自の研究計画を踏まえ、そのプロセスにおいて調査・事例研究・討論・試作などを繰り返しながら、各自のテーマについての整理・分析・考察を行う。それらの成果をまとめるとともに、発表などを通して、プレゼンテーション力などを高める。表現手法や発表方法についても検討を重ねることで、伝達力や実行力などについても身につける。	
		インテリアデザインゼミⅣ	○	「インテリアデザインゼミⅢ」に引き続き、インテリアデザインの領域を中心に、関心や興味のあるテーマを選定し、そのテーマに基づいた研究計画を立案する。各自の研究計画を踏まえ、そのプロセスにおいて調査・事例研究・討論・試作などを繰り返しながら、各自のテーマについての整理・分析・考察を深める。最終的な成果をまとめるとともに、発表などを通して、説得力のある魅力的なプレゼンテーション力を身につける。表現手法や発表方法についても検討を重ねることで、伝達力や実行力などを向上させる。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	専門ゼミ科目	建築デザインゼミⅠ	○	2年次までの学びを踏まえ、建築デザインの領域を中心に、関心や興味のあるテーマを選定する。テーマに基づき、事例研究やデザイン活動などをおして研究・考察する。それらの成果のまとめるとともに、4年次のゼミへ向けて、選択する専門分野の知識を深める。さらに、発表を通して、プレゼンテーション能力などを高めることを目的とする。また、社会人基礎力を高めるために必要な知識の習得や自己管理能力などの向上を目指す。	
		建築デザインゼミⅡ	○	「建築デザインゼミⅠ」に引き続き、建築デザインの領域を中心に、関心や興味のあるテーマを選定する。テーマに基づき、事例研究やデザイン活動などをおして研究・考察する。それらの成果のまとめるとともに、4年次のゼミへ向けて、選択する専門分野の知識を深める。さらに、発表を通して、プレゼンテーション能力などを高めることを目的とする。また、社会で求められる主体性や問題解決力、チームワーク力などの向上を目指す。	
		建築デザインゼミⅢ	○	建築デザインの領域を中心に、関心や興味のあるテーマを選定し、そのテーマに基づいた研究計画を立案する。各自の研究計画を踏まえ、そのプロセスにおいて調査・事例研究・討論・試作などを繰り返しながら、各自のテーマについての整理・分析・考察を行う。それらの成果をまとめるとともに、発表などを通して、プレゼンテーション能力などを高める。表現手法や発表方法についても検討を重ねることで、伝達力や実行力などについても身につける。	
		建築デザインゼミⅣ	○	「建築デザインゼミⅢ」に引き続き、建築デザインの領域を中心に、関心や興味のあるテーマを選定し、そのテーマに基づいた研究計画を立案する。各自の研究計画を踏まえ、そのプロセスにおいて調査・事例研究・討論・試作などを繰り返しながら、各自のテーマについての整理・分析・考察を深める。最終的な成果をまとめるとともに、発表などを通して、説得力のある魅力的なプレゼンテーション能力を身につける。表現手法や発表方法についても検討を重ねることで、伝達力や実行力などを向上させる。	
		卒業研究		空間デザインに関するテーマを選定し、そのテーマに基づいた調査・研究を行い、作品や論文を作成する。インテリアや建築デザインの分野にまつわる問題について提起し、調査・分析を通して、プログラムも含めて提案することを目指す。空間デザインに関する知識を深め、調査・研究・制作手法について習得する。自らが問題を提起し、問題解決の為のコンセプトとデザインプロセスを構築できるようになることを目指す。また、自らの作品や論文について、人に理解してもらうための伝達力やコミュニケーション能力を身につける。	
博物館学芸員養成課程科目	省令必修科目	博物館概論		現代社会において、教育・文化施設である博物館の果たす役割は大きい。本講義は、博物館に関する基礎的知識を習得することを目的とする。生涯学習社会へと移行する中で、博物館の基本を身に付け、博物館に課された役割について考えることで、専門への導入教育としたい。博物館について、存在意義にかかわる本質的な問題、歴史的な歩み、現状と課題、といった観点から概要を説明したあと、国内外の博物館の事例を紹介する。さらに、現実的な立場から、学芸員に何が求められているかについて、理解できるように授業を進めていく。	
		博物館資料論		本講義は、博物館資料の収集、整理保管、情報管理の方法等、理論と知識を含めた、資料に対する基本的な能力を養うことを目標とする。合わせて、考古・民族・美術・歴史・自然史資料等、具体的な資料の特性に即しながら、資料の取り扱いの実際について学んでいく。博物館資料に対する基本的な考え方を講じたあと、資料の収集・整理・活用、一次資料と二次資料、デジタル資料等について解説する。また、博物館では資料を通した調査研究活動がいかに行われているのか、具体例をあげながら説明する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
博物館学芸員養成課程科目	省令必修科目	博物館展示論		本授業は、歴史的観点、意味論（教育論）的観点から博物館の展示について解説し、また具体的事例、あるいは特定の展示を想定しながら展示の組み立て方やデザインの仕方等を講じることで、博物館展示の基本を学ぶことを目的とする。博物館の展示が社会的にどのような意味を持つのか、展示の意義や実態を一般論として学んだあと、展示資料の分類、展示資料の選定、展示の設計、配置計画、導線計画、解説パネル文章作成、広報手段等、展示全般を想定した講義をする。	
		博物館資料保存論		本授業は、博物館における資料保存の基本を講じることを目的とする。展示環境、収蔵環境を科学的にとらえ、資料を良好な状態で次の世代に引き継いでいくための知識を習得することで、資料の保存が、博物館の文化活動においていかに大切なことかを学ぶ。資料保存の意義、資料の現状調査、資料の修理と修復、資料の梱包と輸送、資料の保存環境（劣化条件・災害・総合的有害生物管理・・・）、環境保護と博物館の役割等について講じる。具体的な施設を事例としながら、資料保存の問題について総合的に考えていきたい。	
		博物館経営論		本授業は、博物館の使命と組織形態、及び実際の管理運営の方法について、具体的事例を通して学び、博物館を経営すること（ミュージアム・マネジメント）の基礎的能力を養うことを目的とする。博物館経営の基盤となる、博物館行政制度、博物館の財務、施設設備、組織と職員等について学んだあと、博物館経営の使命と評価、マーケティングとパブリシティ活動、地域社会と博物館等、博物館経営の実際について授業を行う。	
		博物館教育論		本授業は、博物館における教育活動の重要性を理解させることをねらいとする。授業では、具体的な事例を示しながら、教育活動の基礎となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館教育に関する基礎的な能力が身に付くよう配慮する。博物館教育の理論的側面として、生涯教育の場、人材養成の場、地域教育の場、文化情報リテラシー教育の場等の視点から解説する。そのあと、博物館の利用と学びの実際について、心理的效果、教育的効果、教育活動等の内容を事例をあげながら講義する。	
		博物館情報・メディア論		本授業は、博物館における情報の意義と活用方法、情報発信の課題等について、ソフト面、ハード面ともに理解し、博物館の情報提供と活用に関する基礎的能力を養うことをねらいとする。博物館における情報・メディアの歴史と意義、博物館活動と情報ネット化の現状を踏まえ、博物館におけるデジタル情報発信の基本をネット実習等を交えて教授する。さらに、著作権や個人情報等、博物館の知的財産に関しての理解を深める。	
		博物館実習A（見学実習）		博物館実習A（見学実習）は、博物館の実態や展示の仕方を学ぶという観点から、さまざまな博物館を見学し、他の博物館に関する科目で習得した知識を深めることを目的とする。見学は、教員が引率するものと、学生が単独で訪れるものがある。どちらの見学でも、特定のテーマ（展示物の配置、照明と採光、展示資料の解説等）を設定したレポートを課す。また、見学に訪れた博物館の学芸員から直接話を聞くことにより、学芸員の仕事とはどのようなものかについても、理解を深める。	
		博物館実習B（実務実習）		博物館実習B（実務実習）は、博物館における館園実習の準備と他の博物館に関する科目の補足を兼ねて、学内の実習施設等において、資料の取り扱いや収集・保管・展示・整理・分類等の方法、調査研究の手法等について学ぶことを目的とする。館園実習では、博物館が所蔵する資料や展示物に直接触れるため、事前に学内において、資料の取り扱いに関する注意点を十分理解するとともに、資料や展示物に触れる際に必要な技術や方法論を身につける。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
博物館学芸員養成課程科目	省令必修科目	博物館実習C（館園実習）		博物館実習C（館園実習）は、学内実習で学んだ内容を博物館の現場で実際に経験することで、博物館の理念や設置目的、業務の流れ等に対する理解を深めると同時に、博物館資料の取り扱いや収集・保管・展示・整理・調査研究・教育普及活動、来館者対応等の実務の一端を担うことにより、学芸員としての責任感や社会意識を身につけ、学芸員としての心構えを涵養することを目的とする。また、事前には実習に当たっての心構え等について、事後には実習の反省・自己評価等をもとに課題解決のための指導を実施する。	